

- 
- 
- 

# アジアのスポーツ

表・話・編・歴	アジアのスポーツ (関連カテゴリ: Category:大陸別のスポーツ / Category:各国のスポーツ)
東アジア	大韓民国   中華人民共和国 (香港   マカオ)   朝鮮民主主義人民共和国   日本   モンゴル国
東南アジア	インドネシア   カンボジア   シンガポール   タイ   東ティモール   フィリピン   ブルネイ   ベトナム   マレーシア   ミャンマー   ラオス
南アジア	インド   スリランカ   ネパール   パキスタン   バングラデシュ   ブータン   モルディブ
中央アジア	ウズベキスタン   カザフスタン <sup>1</sup>   キルギス   タジキスタン   トルクメニスタン
西アジア	アゼルバイジャン <sup>1</sup>   アフガニスタン   アラブ首長国連邦   アルメニア <sup>1</sup>   イエメン <sup>2</sup>   イスラエル <sup>1</sup>   イラク   イラン   オマーン   カタール   キプロス <sup>1</sup>   クウェート   グルジア サウジアラビア   シリア   トルコ <sup>1</sup>   バーレーン   ヨルダン   レバノン
その他	アブハジア <sup>1</sup>   北キプロス   中華民国 (台湾)   ナゴルノ・カラバフ <sup>1</sup>   パレスチナ   南オセチア <sup>1</sup>



- 
- 
- 
- 
- 
- 
-

























•  
•  
•

# アジア野球連盟

Baseball Federation of Asia

1954年設立 本部:韓国・道谷洞

## 加盟国・地域

-  アフガニスタン
-  イラク
-  イラン
-  インド
-  インドネシア
-  ウズベキスタン
-  カザフスタン
-  韓国
-  カンボジア
-  北朝鮮
-  シンガポール
-  スリランカ
-  タイ
-  チャイニーズタイペイ(  台湾)
-  中国
-  香港
-  日本
-  ネパール
-  パキスタン
-  フィリピン
-  ブルネイ
-  マレーシア
-  ミャンマー
-  モンゴル



• • • • • • • •











# アジアバスケット連盟

## 加盟国

### 東アジア

-  中国
-  香港
-  日本
-  韓国
-  マカオ
-  モンゴル
-  北朝鮮
-  台湾

### 東南アジア

-  ブルネイ
-  カンボジア
-  インドネシア
-  ラオス
-  マレーシア
-  ミャンマー
-  フィリピン
-  シンガポール
-  タイ
-  ベトナム




### 西アジア

-  イラン
-  イラク
-  ヨルダン
-  レバノン
-  パレスチナ
-  シリア
-  イエメン

### 湾岸

-  バーレーン
-  サウジアラビア
-  クウェート
-  オマーン
-  カタール
-  アラブ首長国連邦

### 中央アジア

-  カザフスタン
-  キルギスタン
-  タジキスタン
-  トルクメニスタン
-  ウズベキスタン
-  アフガニスタン
-  バングラデシュ
-  ブータン
-  インド
-  モルジブ
-  ネパール
-  パキスタン
-  スリランカ







協会	代表	創設	AFC加盟	出典
 アフガニスタン	男子/女子	1933	1954	[10]
 アラブ首長国連邦	男子	1971	1974	[11]
 イエメン	男子	1962	1942	[12]
 イラク	男子	1948	1971	[13]
 イラン	男子/女子	1920	1958	[14]
 インド	男子/女子	1937	1954	[15]
 インドネシア	男子/女子	1930	1954	[16]
 ウズベキスタン	男子/女子	1946	1994	[17]
 オーストラリア	男子/女子	1961	2005	[18][19]
 オマーン	男子	1978	1979	[20]
 カタール	男子/女子	1960	1972	[21]
 カンボジア	男子	1933	1957	[22]
 北マリアナ諸島 <small>注釈 1)</small>	男子	2005	<small>注釈 1)</small> [23][24]	
 キルギス	男子/女子	1992	1994	[25]
 グアム	男子/女子	1975	1992	[26]
 クウェート	男子	1952	1962	[27]
 サウジアラビア	男子	1956	1959	[28]
 シリア	男子/女子	1936	1969	[29]
 シンガポール	男子/女子	1892	1954	[30]
 スリランカ	男子	1939	1969	[31]
 タイ	男子/女子	1916	1957	[32]
 大韓民国	男子/女子	1928	1954	[33]
 タジキスタン	男子	1936	1994	[34]
 チャイニースタイペイ	男子/女子	1936	1955	[35]
 中華人民共和國	男子/女子	1924	1974	[36]
 朝鮮民主主義人民共和國	男子/女子	1945	1954	[37]
 トルクメニスタン	男子	1949	1994	[38]

 日本	男子/女子	1921	1954	[39]
 ネパール	男子/女子	1951	1971	[40]
 バーレーン	男子/女子	1957	1970	[41]
 パキスタン	男子/女子	1947	1954	[42]
 パレスチナ	男子/女子	1928	1998	[43]
 バングラデシュ	男子/女子	1972	1974	[44]
 東ティモール	男子	2002	2002	[45][46][47]
 フィリピン	男子/女子	1907	1954	[48]
 ブータン	男子	1983	1993	[49]
 ブルネイ	男子	1956	1970	[50]
 ベトナム	男子/女子	1962	1964	[51]
 香港	男子/女子	1914	1954	[52]
 マカオ	男子	1939	1976	[53]
 マレーシア	男子/女子	1933	1958	[54]
 ミャンマー	男子/女子	1947	1954	[55]
 モルディブ	男子/女子	1982	1986	[56]
 モンゴル	男子	1959	1998	[57]
 ヨルダン	男子/女子	1945	1974	[58]
 ラオス	男子/女子	1951	1980	[59]
 レバノン	男子/女子	1933	1964	[60]

1. <sup>AFC</sup> 北マリアナ諸島サッカー協会は2009年にAFCの準メンバー協会となった。

## 過去の加盟協会 [編集]

-  イスラエル
-  カザフスタン
  - 両協会は現在 UEFA に所属。
-  南ベトナム
  - 北ベトナムサッカー協会(後のベトナムサッカー協会)へ吸収され、現在は存在しない。
-  南イエメン
  - 北イエメンサッカー協会(後のイエメンサッカー協会)へ吸収され、現在は存在しない。



# FIFAランキング

2012年6月5日発表

順位	(前回)	変動	国・地域	ポイント	順位	(前回)	変動	国・地域	ポイント	順位	(前回)	変動	国・地域	ポイント
23	(30)	↑	日本	822	143	(129)	↓	レバノン	207	194	(194)	→	グアム	32
24	(21)	↓	オーストラリア	820	149	(149)	→	ネパール	164	196	(195)	↓	キルギス	24
35	(31)	↓	韓国	719	149	(148)	↓	フィリピン	164	198	(198)	→	マカオ	17
45	(52)	↑	イラン	596	151	(151)	→	インドネシア	159	202	(201)	↓	ブルネイ	5
66	(70)	↑	ウズベキスタン	503	152	(152)	→	バングラデシュ	157	203	(201)	↓	ブータン	4
73	(66)	↓	中国	481	153	(154)	↑	パレスチナ	153	205	(204)	↓	東ティモール	2
74	(72)	↓	イラク	477	154	(153)	↓	マレーシア	151					
80	(81)	↑	ヨルダン	429	157	(158)	↓	シンガポール	143					
87	(86)	↓	クウェート	383	158	(161)	↑	香港	142					
89	(86)	↓	北朝鮮	375	159	(157)	↓	イエメン	141					
91	(84)	↓	カタール	372	164	(164)	→	インド	121					
92	(89)	↓	サウジアラビア	369	165	(164)	↓	モルディブ	120					
95	(94)	↓	バーレーン	359	167	(168)	↑	チャイニーズタイペイ	115					
97	(92)	↓	オマーン	349	168	(170)	↑	アフガニスタン	114					
98	(97)	↓	ベトナム	343	172	(173)	↑	ラオス	96					
119	(120)	↓	アラブ首長国連邦	284	174	(175)	↑	ミャンマー	94					
126	(126)	→	シリア	263	175	(175)	→	カンボジア	93					
129	(131)	↑	タジキスタン	254	176	(177)	↑	モンゴル	88					
136	(141)	↑	タイ	234	181	(181)	→	パキスタン	82					
138	(144)	↑	トルクメニスタン	219	184	(184)	→	スリランカ	74					

©ATSUTO NISHIO



## AFCからのワールドカップ出場国

- 9回
  -  韓国(1954年初出場)
- 5回
  -  日本(1998年初出場)
- 4回
  -  イラン(1978年初出場)
  -  サウジアラビア(1994年初出場)
  -  オーストラリア(1974年初出場・AFCからは2010年初出場)
- 2回
  -  北朝鮮(1966年初出場)
- 1回
  -  インドネシア(オランダ領東インドとして1938年に出場)
  -  イスラエル(1970年に出場・現在はUEFAに加盟)
  -  クウェート(1982年に出場)
  -  イラク(1986年に出場)
  -  アラブ首長国連邦(1990年に出場)
  -  中国(2002年に出場)





# 韓国のスポーツ

韓国文化体育観光部は、スポーツ産業を育成し5年間で新規雇用4万人分を創出する「スポーツ産業中長期発展計画」を発表した。

国内のスポーツ産業に先端IT(情報技術)や科学技術を融合し、来年から2018年までに関連産業を現在の37兆ウォン(3兆5793億円)から53兆ウォン規模に拡大。雇用を23万人から27万人に増やすことを目指す。

「スポーツ産業の融・複合化を通じた未来の成長動力創出」というビジョンの下、融・複合型の未来のスポーツ市場創出、スポーツ参加と観戦促進による潜在需要の拡大、スポーツ産業をリードする企業の育成などの推進戦略を掲げた。

韓国のスポーツ産業は年平均11.9%の成長を続けているが、海外のスポーツ関連企業が韓国市場の70%以上を占めている。このため韓国のITインフラと関連企業のノウハウをスポーツ分野に導入し新たな市場を開拓する計画。

具体的にはスマートフォン(多機能携帯電話)やタブレット端末などIT機器を活用し、運動内容やカロリー消費量などの情報管理や多様な情報の共有ができる開放型スポーツ情報プラットフォームを構築する。18年までに有望企業を毎年20社発掘し育成することも盛り込まれた。

また、雇用支援センターを運営し、未来の市場の需要に柔軟に対応できる専門人材を育成する計画。

文化体育観光部は総額2740億ウォンの予算が必要と試算している。



- ・
- ・
- ・



# 韓国のスポーツ

日本統治時代の朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国(以下「北」と略称)、大韓民国(以下「南」と略称)を含めた朝鮮全体のスポーツを説明する。李氏朝鮮時代には、肉体的活動を蔑む儒教のために、体育やスポーツは発達しなかった。崇文賤武思想(武術より学問を優位とする思想)により、文官が優先され武官は賤視されたので、武技も不振だった。近代的なスポーツは日本統治時代に広まった。李氏朝鮮時代の教育は科挙受験のための古典漢文教育に偏っていたが、新しい学校教育の中で体育が導入された。また、この時期に各種の競技団体が設立され、競技大会が開かれた。この時代は朝鮮は日本の一部だったから、選手は日本の国内大会に参加したし、日本代表としてオリンピックなどの国際大会にも参加した。第2次大戦後は朝鮮は南北に分かれたが、国際大会に南北合同チームで参加し「コリア」の名前で国旗の代わりに統一旗を使うこともある。南では現在、野球、サッカー(男子のみ)、バスケットボール、バレーボールの4大プロスポーツがある。





# 韓国のスポーツ

1980年代までは、政府は学校体育とエリート体育に重点を置いており、体育・スポーツ政策における生活体育(健康と体力増進のために行う日常的なスポーツ活動)とエリート体育の均衡ある発展は考えにくい時代。第3共和国が体育・スポーツ政策の基礎を固めた時期であったとすれば、第5共和国(1981-1988)は、スポーツ共和国と呼ばれるほど、どの歴代政権より体育・スポーツ分野に多くの関心を注いだ。

特に政府組織内に「体育部」を新設することによって国民体育振興を本格的に推進し、体育・スポーツを通じて国民和合、福祉増進および国威宣揚を図ろうとした。

このような背景の中で、1986年のソウルアジア大会と1988年のソウルオリンピックに向けた準備を進めることとなった。



- 
- 
- 



# 韓国のスポーツ

ソウルオリンピックの成功を足掛かりとして、第6共和国の政府(1988-1993)は、「国民生活体育振興総合計画(ホドリ計画)」を策定し、1991年に生活体育を専門に担当する国民生活体育会を設立し、国民の生活体育の振興のための制度的な基盤を構築した。

文民政府(1993-1998)は、特に生活体育とエリート体育の均衡ある振興を図る政策を実施するために、「第1次国民体育振興5ヶ年計画(1993-1997)」を策定し、体育・スポーツ政策を推進した。

国民政府(1998-2003)は、「第2次国民体育振興5ヶ年計画(1998-2002)」を策定し、2002年のサッカーワールドカップ日韓大会を成功させるための基盤施設の拡充と国民の生活体育の機会拡大に重点を置き、体育・スポーツ政策を展開した。

参与政府(2003-2008)は、「第3次国民体育振興5ヶ年計画(2003-2008)」を策定し、スポーツ参加率の向上を通じた国民の健康増進と、世界10位以内の競技力の維持を通じた国威宣揚に重点を置き、当該政策を推進しながら多世代・多年齢が参加できるスポーツクラブ事業を推進した。



- 
- 
- 



# 韓国のスポーツ

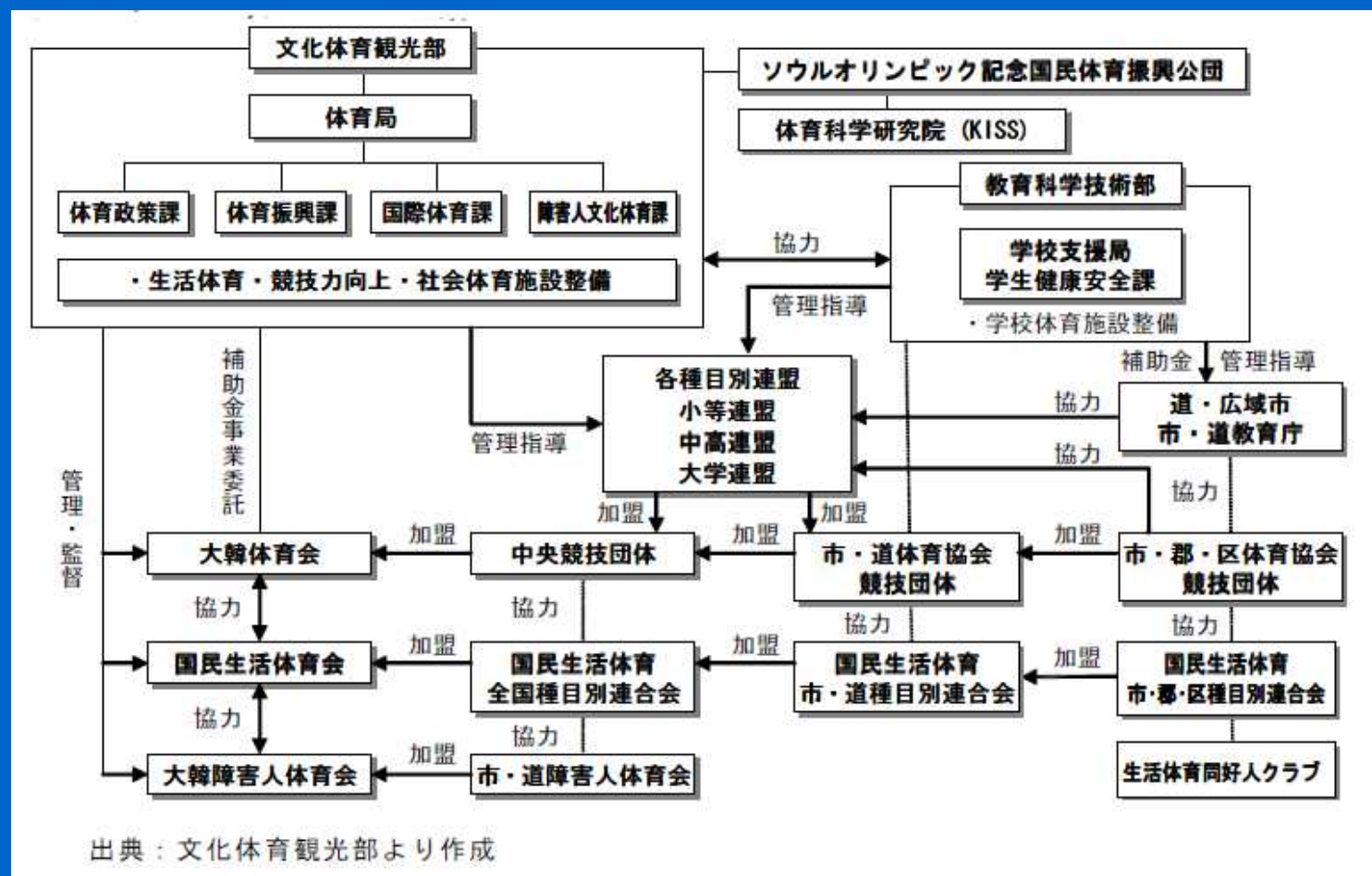
2008年からは、「文化ビジョン(2008-2012)」を策定し、スポーツ活動の参加状況の改善、スポーツに親しみやすい教育環境の整備、世界の中での韓国スポーツの位置づけ、エリートスポーツの国際競争力の強化、スポーツ行政システムの先進化、スポーツ産業の競争力の強化などの主要政策課題を提示し、体育・スポーツ振興政策を推進している。

歴史的にみると、韓国のスポーツ政策は、競技力向上に関する施策を中心に展開されてきたが、第6共和制以降は、徐々に生涯スポーツやスポーツ産業に関する施策が導入され、政策の転換を今後どのように図るかが政策課題となっている。





# 韓国のスポーツ組織体制図





# 韓国のスポーツ

陸上

サッカー

野球

バスケットボール

バレーボール

ハンドボール

重量挙げ

スケート

ゴルフ

武術・格闘技

プロレス

ボクシング

ラグビー

- ・ 1933年 朝鮮蹴球協会 設立
- ・ 1934年 朝鮮野球協会(現. 大韓野球協会)  
1982年 プロ野球開始
- ・ 1925年に朝鮮バスケットボール協会  
(現在の大韓バスケットボール協会)





# 韓国の4大スポーツ

サッカー(Kリーグ)の平均年俸は1億4610万ウォン、野球より高額  
チームの年俸総額、最高は水原サムスン...1人平均2億9250万ウォン

発足から30周年を迎えた韓国プロサッカーKリーグ(発足当初はスーパーリーグ)が、初めて全球団の選手の年俸状況を公開した。

韓国プロサッカー連盟は11日、Kリーグクラシック(1部リーグ)の選手の平均年俸を調査した結果、1億4610万ウォン(約1288万円)だったと発表した。

これは、Kリーグクラシック所属14球団の登録選手467人(外国人は除く)を対象に、基本給と各種手当を合わせた年俸の現況を調査したもの。この金額は韓国の4大プロスポーツ(野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール)の中で2番目に高い。

韓国の4大プロスポーツのうち平均年俸が最も高いのは、男子プロバスケットボール。男子バスケは、10チーム125人(1部リーグ開幕時の登録選手)の2012-13シーズンの平均年俸が1億4858ウォン(約1310万円)で、プロサッカーをわずかに上回った。プロ野球(13年シーズン、9チーム222人)が1億3815万ウォン(約1218万円)、男子プロバレーボール(12-13年シーズン、6チーム98人)が9370万ウォン(約827万円)だった。

水原サムスンが、韓国人選手31人の年俸総額90億ウォン(約7億9400万円)で最も高い。選手1人当たりの平均年俸は2億9250万ウォン(約2580万円)。続いて全北が2億4633万ウォン(約2173万円)、蔚山が2億2610万ウォン(約1994万円)の順だった。

これはプロ野球と比べると高い数字。プロ野球で平均年俸が最も高いのはサムスン。  
外国人を除いた韓国人選手1人当たりの平均年俸は1億8865万ウォン(約1664万円)で、プロサッカーでいえば5位に該当。

プロ野球は、新生チームのNCダイノス(6596万ウォン=約582万円)を除く全チームの平均年俸が1億ウォン(約880万円)台だが、プロサッカーは2億ウォン(約1760万円)台が3チーム、1億ウォン台が7チーム、1億ウォン以下が4チームとチーム間の差が大きい。





# 見模

	プロ野球			
	試合数	入場者数	一試合平均 入場者数	客席占有率
2007年	517	4,410,340	8,531	41.81%
2008年	518	5,636,191	10,881	53.3%
2009年	549	6,347,538	11,562	56.6%
2010年	547	6,236,626	11,402	58.0%
2011年	548	7,154,378	13,055	65.7%

プロサッカー				
	試合数	入場者数	一試合平均 入場者数	客席占有率
2007年	254	2,746,749	10,814	26.7%
2008年	253	2,945,400	11,642	28.7%
2009年	256	2,811,648	10,983	29.0%
2010年	210	2,703,323	12,873	29.4%
2011年	283	3,030,586	10,709	34.9%

出所：体育科学研究院（2012）





# 韓国における運動・スポーツ実施率の推移

(10歳以上、1994～2010) (%)

(年)	実施して いない	月2～3回	週1回	週2～3回	週4～5回	週6回	毎日	週2回以上
1994	43.3	8.0	11.2	15.8	4.5	-	17.3	37.6
1997	37.8	10.0	13.4	17.3	9.4	-	12.1	38.8
2000	34.1	16.7	15.8	16.7	7.1	-	9.6	33.4
2003	22.5	18.2	19.5	19.9	8.5	-	11.4	39.8
2006	28.6	13.3	13.9	24.0	12.0	-	8.1	44.1
2008	53.2	4.4	8.2	15.9	9.3	2.1	6.9	34.2
2010	45.3	4.4	8.8	21.2	11.8	2.9	5.6	41.5

※30分以上の運動・スポーツ実施

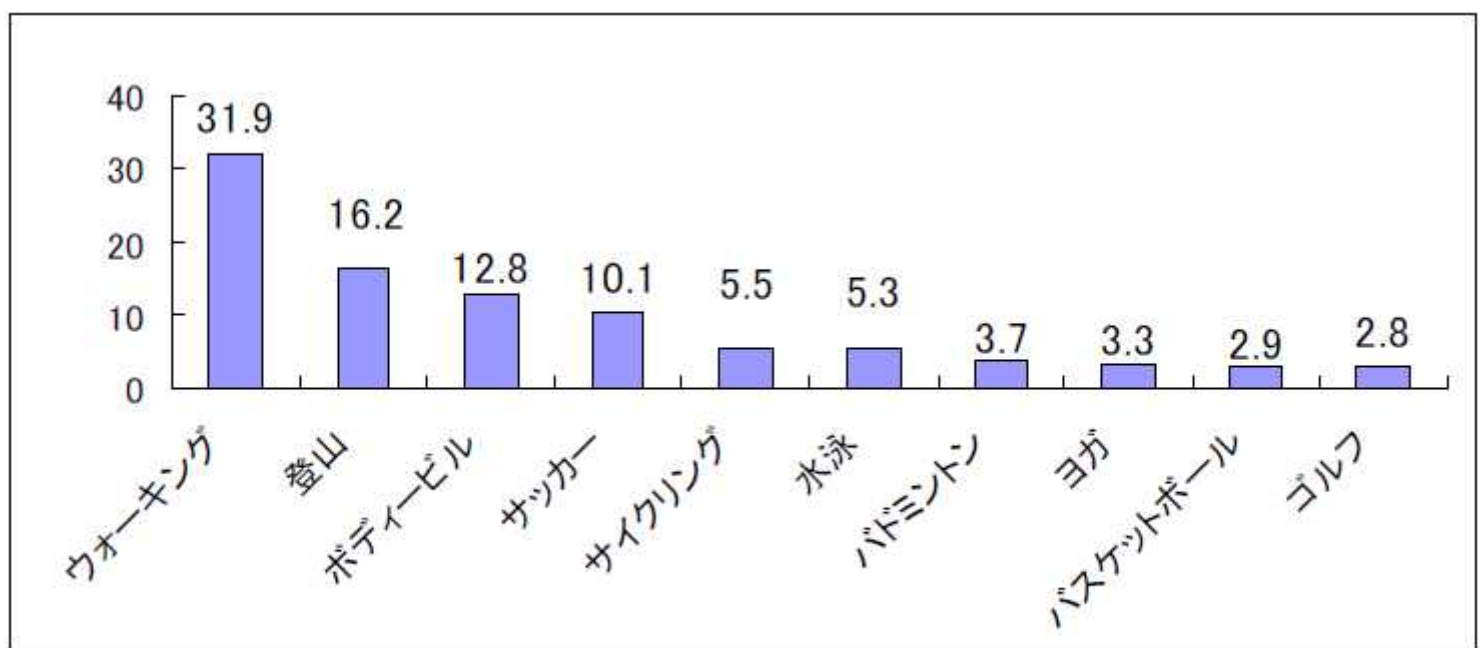
出典：文化体育観光部(2010). 国民生活体育参与実態調査より作成





# 主に実施しているスポーツ活動とその割合

(%)



出典：文化体育観光部(2010). 2009体育白書より作成





# 生活体育同好人クラブ(地域スポーツクラブの 数・種目数および会員数の動向

年	クラブ数	種目数	会員数
2002	52,020	84	1,776,604
2003	64,665	109	2,176,221
2004	73,802	109	2,449,948
2005	77,452	109	2,556,737
2006	82,781	109	2,701,736
2007	92,688	109	2,913,806
2008	95,075	115	2,985,253
2009	97,697	115	3,081,436
2010	97,815	117	3,085,879

出典：文化体育観光部(2010)。 2009体育白書により作成





## スポーツ・レジャー産業生産規模および鉱工業内比重

(単位:億ウォン)

	1986	1988	1990	1992	1994	1995
A 飲料	—	—	347	823	1,584	2,963
B 衣類・運動靴	8,823	5,326	7,875	22,586	15,555	15,913
C 運動用品	3,521	5,726	4,632	6,034	7,214	7,636
D A+B+C	12,344	11,052	12,854	22,943	24,353	26,512
E 鉱工業全体 (100 億ウォン)	9,239	13,442	17,665	2,562	2,978	3,606

(出典) 朴 英玉, 1998, 韓国スポーツ産業の物流経済, スポーツ科学, 第 63 号, 韓国科学研究院, 34.





## 韓国政府、スポーツ産業を通じて雇用創出

韓国政府はスポーツ産業とIT技術などを融合させ、向こう5年間で上記内容の実現を目指す「スポーツ産業中長期発展計画」を発表。スポーツ産業の先端化などに5年間で53兆ウォンを投じる同計画の柱は、国民がより気軽にスポーツを楽しめる環境づくりと新規市場の創出。

スポーツ産業関連企業の育成については、スポーツ資産価値評価制度やスポーツエージェント制度などを導入し、スポーツ投資組合を結成して金融投資インフラを整備するとともに、産学研ネットワークを構築して企業経営の力量を強化する計画。

また、スポーツ産業における母胎ファンドとクラウドファンディングシステムを構築して企業が参加できる機会を提供し、2018年まで年間20、計100のスポーツ産業強小企業を育成する計画。





# 韓国のスポーツ産業規模の推移

区分	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
スポーツ産業規模 (ウォン)	19兆6,507億	22兆3,642億	23兆2,698億	26兆3,614億	33兆4,439億
GDP (ウォン)	847兆9千億	915兆9千億	901兆2千億	1,023兆9千億	1,050兆
GDP対比スポーツ産業比率	2.24%	2.44%	2.58%	2.57%	3.18%
増加率 (%)	-	13.81%	4.05%	13.29%	26.8%

出所：文化体育観光部 (2010)、2010年度スポーツ産業経営情報





# 日・韓・米のスポーツ産業規模比較

	日本	韓国	米国
GDP	368兆3,076億円	1,023兆9千億ウォン	14兆2,646億ドル
スポーツ産業	11兆2,000億円	26兆3,614億ウォン	4,106億ドル
GDP対比スポーツ産業比率	3.04%	2.57%	2.88%

出所：韓国労働研究院（2008）

## 対円為替レート





# 台湾のスポーツ

- サッカー ..
- 野球 .. プロ野球機構(中華職棒聯盟, CPBL)
- バスケットボール ..





# 中国のスポーツ

## スポーツのプロ化

中国で人気のあるスポーツは、サッカーとバスケットボールである。特にサッカーの人気が高く、選手の年俸も一番高い。サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球、囲碁などはプロ化している。プロ養成機関としては、プロチームの下部組織のようにスポンサーからの支援で成り立っているクラブと、選手からの会費収入でなりたっているクラブの2種類がある。前者は学校から選手をスカウトし、無料で育ててくれる。後者は、高い会費を払わなければならない。

中国で、一般の人が出世する方法として、高学歴を得る、商売で儲ける、芸能人や芸術家になる、などがあるが、スポーツ選手になることもその中の一つである。中国では教育にお金がかかり、並みの収入の家庭では良い学校に入れない。高卒と大卒では、年収が3倍違うといわれている。

スポーツのプロ養成機関も例に漏れず、自費で参加できる選手は経済力のある家庭の子息だけである。また、受験競争の激しさと同様に、「小学校三年生くらいと思われる女兒が体操の指導を受けているところを見学しました。コーチの納得する技ができず、叩かれ泣きながら訓練を受けていて、暗い気持ちに」(2000,山田)なったというように指導そのものも過熱している。



- 
- 
- 



# 中国のサッカー

## 中国のサッカー組織

中国には、サッカーの全国リーグとして甲A、甲B、乙のトップリーグ(表1)と、21才以下、19才以下、17才以下のユースリーグ、そして、女子リーグがある。新しくプロを目指すチームは、乙リーグから始めて勝ち上がっていく。今は、施設や選手の確保など経営的に難しいのでチームが増えていく様子はないようだ。甲Aから乙までに所属する選手は、基本的にはサッカーを職業としている。チーム名には、スポンサー企業の名前がついている。





# 中国のサッカー

## プロサッカーチームの運営

上海には、甲Aに所属する上海申花、甲Bの上海浦東、乙の上海有線電視台、女子の上海電視台がある。上海申花は、甲Aでも常に上位に位置する強豪であり人気チームである。

上海申花足球俱樂部副總經理の胡康健氏によれば、上海申花足球俱樂部的經營は甲Aリーグ所属クラブの中では良い方だが決して楽ではなく、まず、自分の力でクラブを維持していくことが目標となっている。クラブの經營は、7社があわせて2億元を出資して設立した申花株式有限公司が行っており上場もしている。元々は上海申花という中堅の家電メーカー所有のクラブだったが、最近、經營を分離し独立した。スタッフは選手以外に40人ということである。

入場料	VIP席	100元 (約1300円)
	甲席	80元 (約1040円)
	乙席	60元 (約780円)
	丙席	40元 (約520円)

資料: 胡氏より聞き取り作成 主な収入は、入場料、広告料(看板、ゼッケン等)、放映権料などである。総収入は5000万元(約6億5千万円)で、内、入場料収入は1500万元(約2億円)であり、全体では黒字だそうだ。ゼッケンスponsorは、家電と食品の外資系メーカーである。

入場料は表2のとおりで、決して安くはないが、3万人収容のスタジアムの7割程度が常に埋まるようである。

年俸は基本給と勝利給がある。内国人の基本給は最高限度が1万2千元以内に決まっている。外国人は基本給が高い。勝利給は公式のリーグ戦で勝つと40万元、引き分けると20万元をチームに分配し、各選手への配分方法は監督やスタッフが決める。負けるとゼロだ。また、移籍金制度なども整えられているようである。

ホームスタジアムである虹口足球场は、区政府などが出資した上海市虹口体育投資發展有限公司が所有している。芝生の練習場やクラブハウスも政府から借りている。

©APSU TO NISHIO



- 
- 
- 

